

向日が丘支援学校改築基本構想検討会議（第3回）の議事要旨

1 日時

平成31年1月15日（火曜日）午後3時から同5時まで

2 場所

京都府立向日が丘支援学校

3 出席者

【委員】

青木委員、池田委員、太田委員、岡本委員、外田委員、能塚委員、野田委員、平岡委員、丸岡委員、水上委員、山本委員

【オブザーバー】

齋藤乙訓教育局長、時田乙訓保健所長（代理 井上福祉室長）

【事務局】

細野指導部長、平野管理課長、安田特別支援教育課長他

4 議題

(1) 開会挨拶 京都府教育庁 細野指導部長

(2) 事務局説明

(3) 前回までの会議における意見

(4) 共生型地域づくりの核にふさわしい整備の方向性

(5) 本会議における意見のとりまとめについて

(主な意見)

ア 福祉施設と特別支援学校との連携を進めるための検討と分析について

(ア) 切れ目のない支援を小さな子ども（療育）の頃から支援ファイル等を含めて連携してほしいという保護者の意見もあり、施設設備と併せてソフトの面においても連携策を十分考えていかなければならない。

- (イ) 寄宿舎について、福祉という広い面から考えると、支援学校に通う子どもだけではなく、それ以外の子どもや保護者の緊急対応等、地域のニーズにも応えることのできる仕組みを考えて行かなければならない。
- (ウ) 福祉施設構想の中で、学校の教育活動が、施設や地域の人たちとかけ離れて展開することは考えにくい。施設の中で、地域の人たち、教育活動、子どもたちや保護者それぞれのニーズがうまく動線で結びつくような施設になれば良いと思う。
- (オ) 共生型の福祉施設が、地域に出る前の身近な地域(ステップ)になってほしい。また、一度就労してつまずいた時に帰ってきて、また新たな就労に向かうイメージ。そのような施設が共生型の施設なのではないか。

イ 改築基本構想の構成、記載すべき内容とその観点について

- (ア) 子どもたちは学校の中だけではなく、社会との関係性の中で育っていくので、共有ゾーンを学校と福祉だけでなく、地域社会とも共有していきたい。いきなり社会に出るのではなく、そのプロセスとして共有ゾーンで新たな学びを得たり、学び直したりということが考えられるのではないか。障害のある方、高齢の方がまとまっているのではなく、ここから地域社会に開けていくというイメージをぜひ落とし込んでほしい。
- (イ) 教育機能の中でどれだけ福祉機能をリカバーできるのかが大切だが、教育・福祉・生涯学習等を行おうとしたときに、すべてが中途半端にならないようにしなくてはならない。また、両方の施設で二重投資にならないよう、十分調整が必要。
- (ウ) 子どもたちの可能性を少しでも伸ばして、社会の一員として活躍できることを地域社会に発信できる取組を構想に加えてほしい。